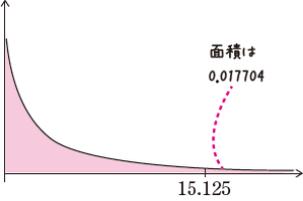
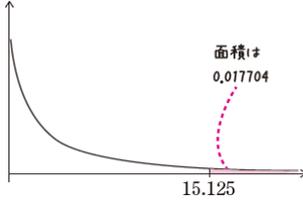


以下の通り表記に誤りがありました。ご迷惑をおかけしましたことを訂正してお詫び申し上げます。

該当刷ページ	該当箇所	【誤】	【正】
初版～4刷 p.72	右の表(3か所)	z_i	\bar{z}
初版 p.84	9行目	$= N(k - f_1 - \dots - f_k) = N(k - 1)$	$= N(k - f_1 - \dots - f_k) = N(k - 1)$
〃	最終行の後に追加		上では、 x のカテゴリーを決めると、 y のカテゴリーが決まる場合について、クラメールの連関係数が1になることを示しました。 逆に、 y のカテゴリーを決めると、 x のカテゴリーが決まる場合(p.80の例はこの場合)についても、同様な計算でクラメールの連関係数が1になることを示すことができます。
初版 p.107	6行目	回帰分析	回帰直線
〃	赤枠内 2、3行目	〃	〃
〃	赤枠内 1、2、3行目	α	p
初版 p.110	本文4行目	回帰分析が	回帰直線が
初版 p.111	7行目	帰無仮説を否定します	帰無仮説を否定(統計学の用語では棄却)します
〃	8、9、11行目	回帰分析	回帰直線
〃	9～10行目	(厳密には「回帰分析が当てはまらないことはない」)	→削除
〃	11行目	0.05より小さくなる場合	0.05より大きくなる場合
〃	12行目	帰無仮説は採択されます	帰無仮説は採用(統計学の用語では採択)されます
〃	14、15、16行目	α	p
〃	15、16行目	回帰直線は却下 回帰直線は採用	回帰直線は却下(棄却) 回帰直線は採用(採択)
初版 p.113	6行目	回帰分析は	回帰直線は
初版 p.114	1行目	回帰分析が	回帰直線が

初版 p.114	右下の図		
初版～4刷 p.142	1行目	x の平均、 y の平均を	P, Q 2つのグループのサイズが同じときは、 x の平均、 y の平均を
初版 p.225	上の表	第2問 男 女	第2問 未 上
初版 p.247	本文 下から4行目	$\left(-\frac{1}{\sqrt{2}}, \frac{\sqrt{2}}{2}\right)$	$\left(-\frac{\sqrt{2}}{2}, \frac{\sqrt{2}}{2}\right)$